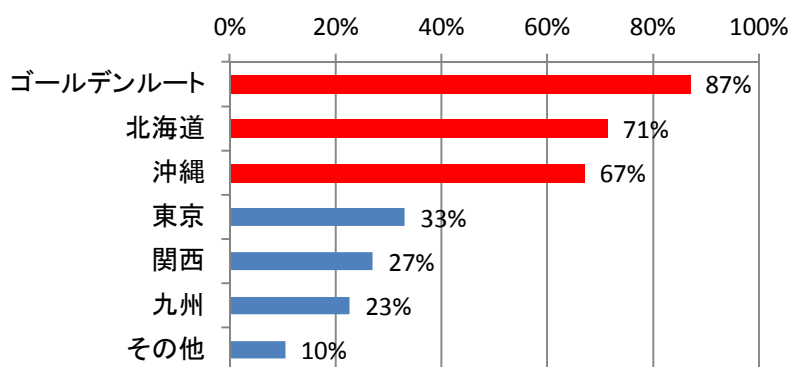


2012年 中国訪日旅行市場動向調査 報告書（抜粋）

1. 2012年に販売に力を入れたい目的地

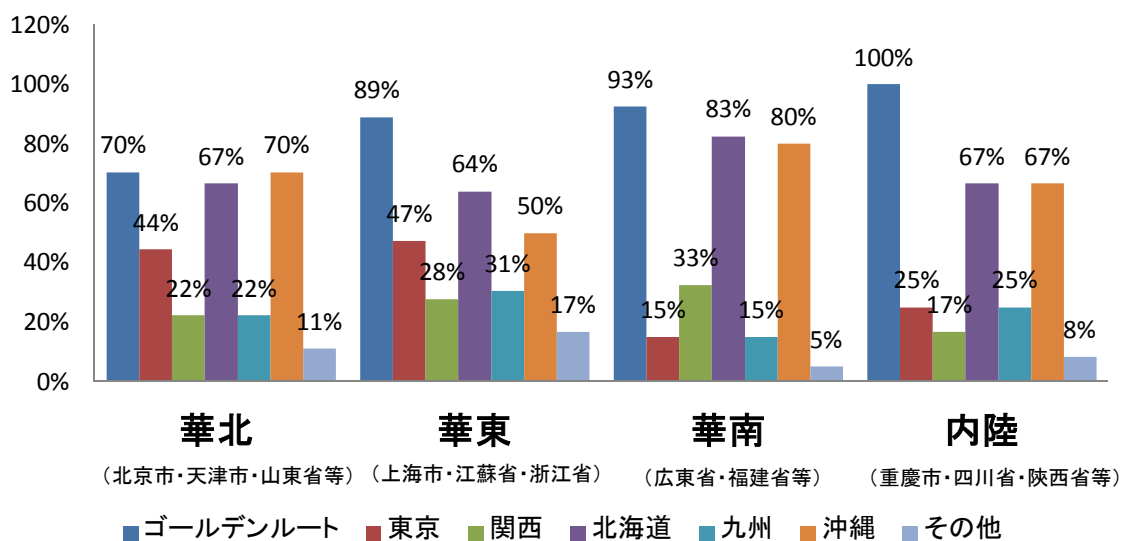
最も多いのが東京～大阪間の有名観光地を横断する「ゴールデンルート」で87%、続いて北海道71%、沖縄67%となった。
北海道は人気旅行目的地として定着してきているが、沖縄がそれに迫る勢いで伸びている。
中国全土でのビーチリゾート人気や訪日個人観光の急成長を背景に、さらには2011年7月に沖縄に滞在することが条件で得られる個人観光数次査証(3年間有効)の制度が導入されたことで、沖縄への訪問者が飛躍的に増加している。

[図1] 2012年に販売に力を入れたい目的地(複数回答)



地域別で見ると、沖縄と北海道が拮抗しているところが多く、華北ではゴールデンルートと沖縄が並ぶほどになっている。

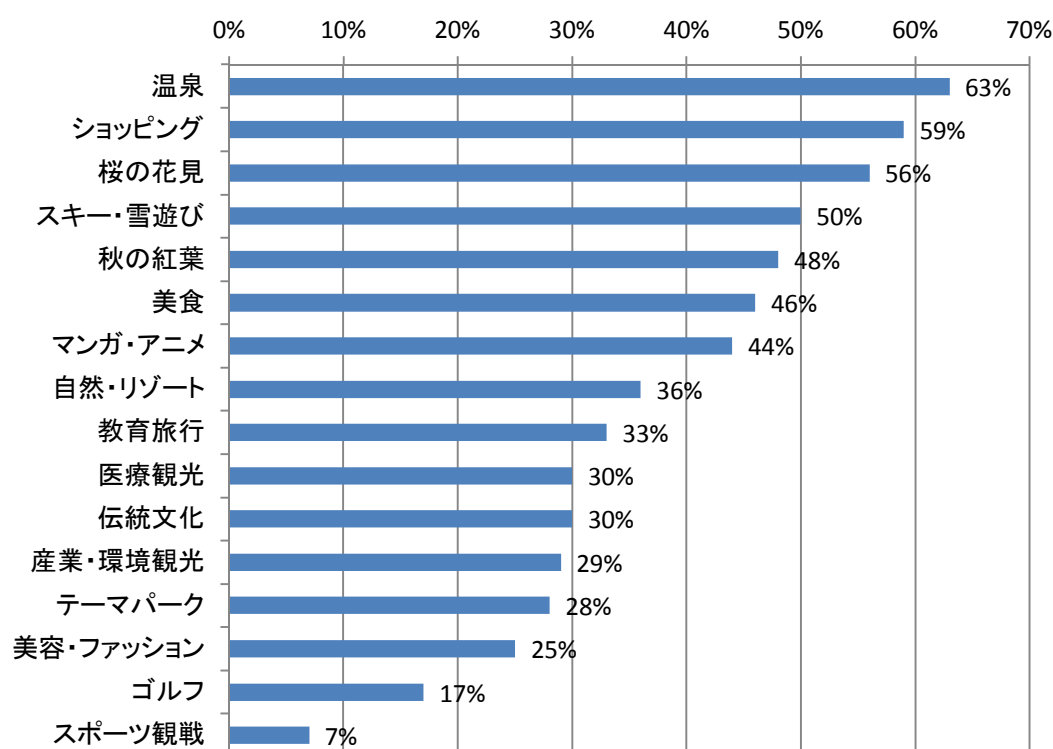
[図2] 2012年に販売に力を入れたい目的地・地域別(複数回答)



2. 2012年に期待できる訪日旅行のテーマ

2012年に期待できる訪日テーマは、複数回答で最も多く票を集めたのが「温泉」(63%)、2位が「ショッピング」(59%)、3位が「桜の花見」(56%)、4位が「スキー・雪遊び」(50%)、5位が「秋の紅葉」(48%)となった。「紅葉」を見るツアーは、昨年、国慶節(10月上旬)と春節(旧暦の元旦、1月～2月頃)の間の閑散期に訪日旅行へ行く人が増えたためと考えられる。

[図3] 2012年に期待できる訪日旅行のテーマ(複数回答)

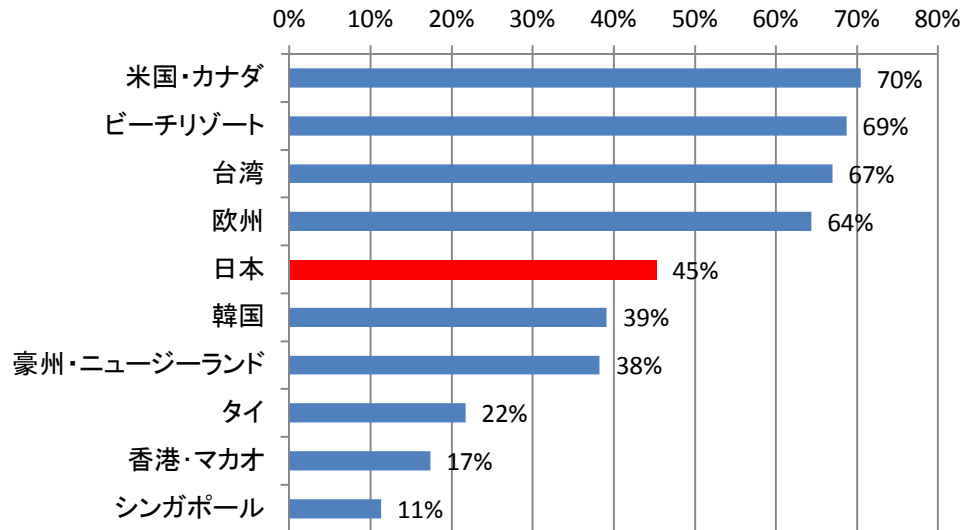


3. 2012年に人気となる外国旅行目的地

2012年に人気となる外国旅行目的地(香港・マカオを含む)を複数回答で尋ねたところ、1位が「米国・カナダ」(70%)、2位が「ビーチリゾート」(69%)、3位が「台湾」(67%)となった。日本は5位にとどまった。中国で特に人気のあるビーチリゾートはモルディブ、バリ、プーケットなどである。

地域別では、華北で「台湾(70%)」、華東では「米国・カナダ(81%)」、華南では「台湾(75%)」「ビーチリゾート(75%)」、内陸では「日本」「米国・カナダ」「欧州」がそれぞれ67%と並んでトップとなった。華南では韓国が日本を上回っている。

[図4] 2012年に人気となる海外旅行目的地(複数回答)

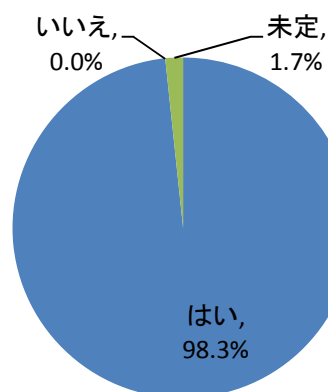


4. 個人観光旅行への取り組み

近年急激に増えている訪日個人観光の取扱について、今後積極的に取り組む予定があるか聞いたところ、113社(98.3%)が「はい」と回答した。未定が2社(1.7%)で、「いいえ」と回答したところはない。

今年も個人観光による訪日の順調な成長が期待される。

[図5] 個人観光旅行への取り組み

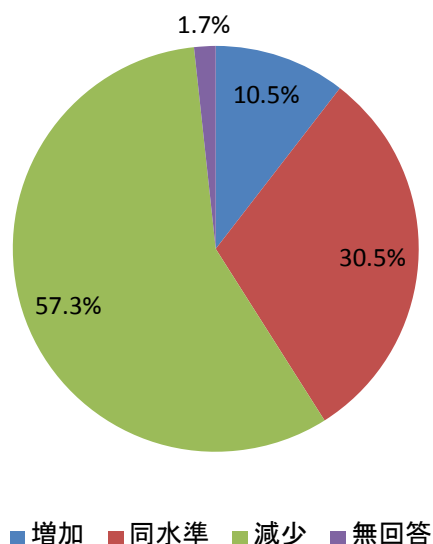


5. 2012年の訪日中国人旅行者数の見込み

各社に2012年の訪日中国人旅行者数が、過去最高を記録した2010年(140万人)と比べて増加するかどうかの見込みを尋ねたところ、「減少」が最も多く66社(57.3%)、「同水準」が35社(30.5%)、「増加」が12社(10.5%)という結果となった。

今回の回答者は「訪日中国人数全体」に関する予測を行ったというよりも、自社の取扱数の増減についての見込みを回答したと考えられる。

調査時期に南京事件をめぐる報道があったり、千葉県沖地震や南海トラフの地震規模想定(マグニチュード9.1)に関する報道が流れたことも影響していると考えられる。



[図6] 2012年の訪日中国人旅行者数の見込み

【「減少」の理由】

- ・地震、放射能汚染への懸念
- ・日中関係の不安定要素
- ・日本の安全に関するネガティブな報道
- ・中国の景気後退
- ・競合国(台湾、米国等)の人気上昇

【「増加」の理由】

- ・日中国交正常化40周年
- ・中国人の海外旅行ブーム継続
- ・個人旅行者の増加

また、地域別の内訳は以下の通り。
 <華北>「増加」と「同水準」を合わせると約5割となった。
 <華東>「増加」の1社は江蘇省。杭州は1社を除き「減少」と回答した。
 <華南>「減少」の回答は広西チワン族自治区、海南省が多かった。これらの地区は日本への直行便がないこともネックとなっている。
 <内陸>「増加」が16.7%、「同水準」が50%と最もポジティブな結果が出たが、これはもともと内陸からの訪日旅行者が少ないことも影響していると考えられる。

[図7] 2012年の訪日中国人旅行者数の見込み(地域別)

